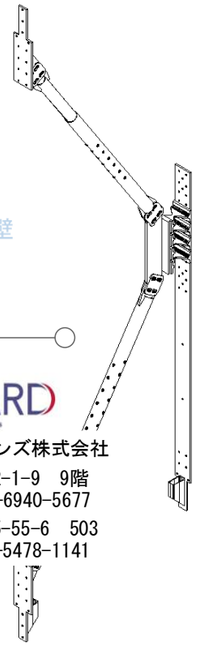


K*ブレースSiB 耐震&制振壁

取扱説明書

販売代理・設計 FORWARD Housing Solutions
フォワードハウジングソリューションズ株式会社
〒540-0037　大阪市中央区内平野2-1-9　9階
tel:06-6940-5681　fax:06-6940-5677
〒151-0053　東京都渋谷区代々木5-55-6　503
tel:03-5478-7251　fax:03-5478-1141
http://forward-g.co.jp/

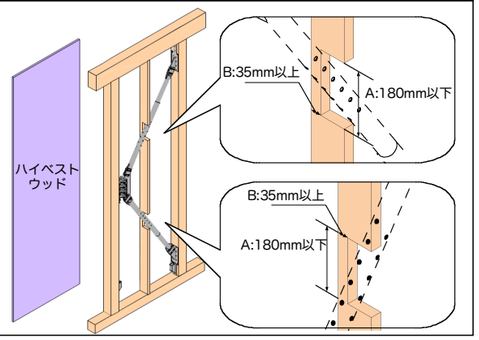
注意事項

【外周面の断熱材への対応】
☆外断熱、ウレタン発泡を推奨しています。
（室内配置で対応可能な場合を除く。）
（K・ブレースSiB部分のみウレタン発泡とする等の対応も可）

→ 東西・南北両面に接するような大きなLDKがある場合等は、K・ブレースSiBを外周にしか設置できない場合があり、外断熱、ウレタン発泡以外では対応が難しいケースが想定されるため

【間柱の欠き込み方法について】
☆K・ブレースSiBと干渉する部分は、間柱を切り欠いて下さい。
欠き込みの目安は以下の通りです。

《間柱の欠き込み》（右図参照）
・欠き込み高さA：180mm以下
（ブレースの中心から上下に90mm程度づつ）
・欠き込み後の残り幅B：35mm以上



⚠ 安全上のご注意 ⚠

● 不安定な場所に置かないで下さい。また、立てかけないで下さい。転倒等により、けがをする原因になる可能性があります。

部材一覧

ブレースユニット
アウターパイプ
※太い方のパイプ
（数量：2）

インナーパイプ
※細い方のパイプ
（数量：2）

柱脚部ブラケット
（数量：1）

柱頭部ブラケット
（数量：1）

ブレース支持ユニット
（数量：1）

ガセットプレート
（数量：8）

ボルト・ビス類

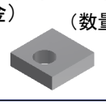
六角スクリュー
（数量：44本使用）

ハンガーボルト
（数量：1）

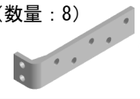
高力ボルトセット
（数量：M10×8セット、M12×16セット）
ナット（数量：各1）
平ワッシャ（数量：各2）
スプリングワッシャ（数量：各1）

付属品

ホールダウンワッシャ
（座金）　（数量：2）



フリーダムコーナー
（数量：8）



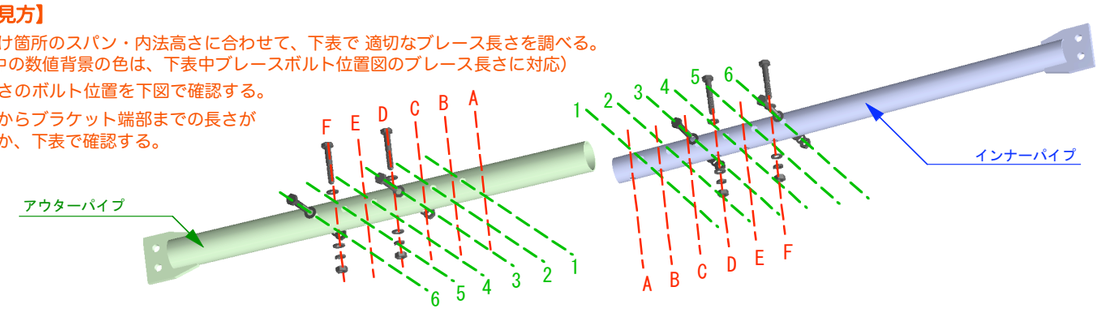
※専用ビス付き
※短期耐力8.5kN、N値1.6以下

用意するもの

□インパクトドライバー
□インパクトドライバー用ロングジョイント
□六角ソケット（インパクト用10m/m）
※10cm程の長さがあると使いやすい
□スクエアビット（#3）
※ロングが使いやすい
□下穴キリ（3～4m/m程度）
□トルクレンチ
（70N/mまで使用できるもの）
※ソケット17m/m,19m/mが必要
□モンキーレンチ
（24m/mまで使用できるもの）
□さしがね（矩尺）
□スケール（コンベックス）
（5.5m程度のもの）
□さび止めスプレー（ウレタン防錆塗料）

穴の位置決め、Xの距離算出

【図表の見方】
☆ 取付け箇所のスパン・内法高さに合わせて、下表で 適切なブレース長さを調べる。
（表中の数値背景の色は、下表中ブレースボルト位置図のブレース長さに対応）
☆ 各長さのボルト位置を下図で確認する。
☆ 仕口からブラケット端部までの長さが適切か、下表で確認する。

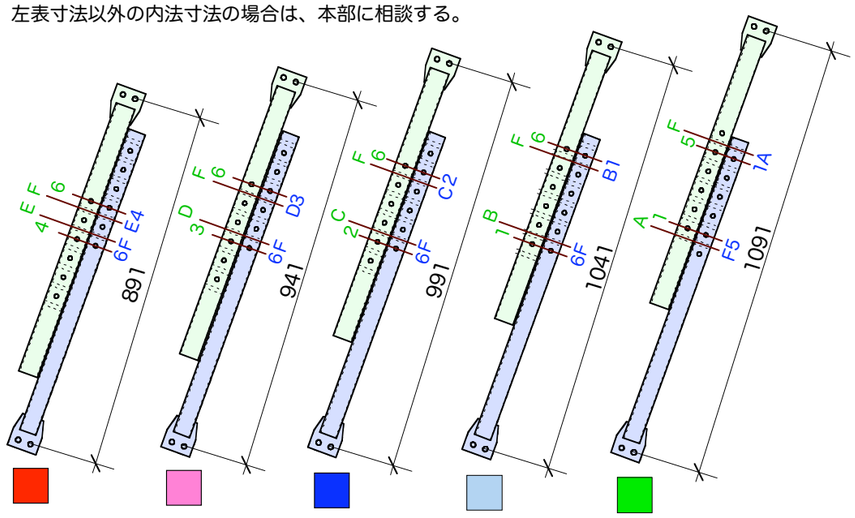


ブレース長さ ＆ 仕口・ブラケット間距離　一覧表〔mm〕　《参考値》

内法高さ ＼ 柱間隔（内法幅）	910 (790)	1000 (880)
2,870	37	36
2,840	22	21
2,810	7	6
2,780	51	54
2,750	36	39
2,720	21	24
2,690	6	9
2,660	52	57
2,630	37	42
2,600	22	27
2,570	7	－
2,540	54	－
2,510	39	－
2,480	24	－

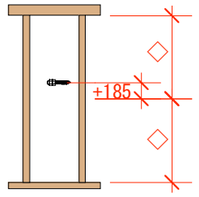
【注意事項】
・原則左表中の数値の「-15」～「+5」を許容値とする。
※左記表中の数値が15に満たないものは、「+5」～左記の表中の数値を許容値とする。
・例外として、木材の変形等で上記ブレース長さでは収まらない場合は、ブレース長さを１ランク短くして 対応する。（例：■→■）
その場合の横架材の上端または下端からブラケット端部までの長さは、100mm程度を許容値とする。
・左表寸法以外の内法寸法の場合は、本部に相談する。

11　色　：ブレース長さ（右図参照）
数字：次ページ 4 のX寸法のことで、仕口からブラケットの端部までの長さ〔mm〕
「ー」 適用範囲外

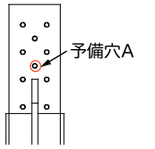


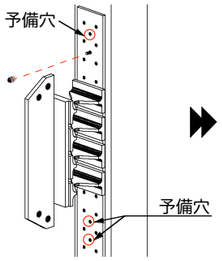
ブレースボルト位置図

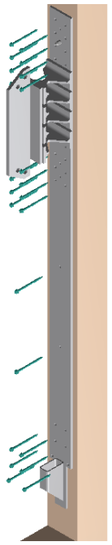
1



取付ける柱の内法高さの中央に185mmを加えた高さ且つ柱幅の中央部に下穴をあけ、ハンガーボルトを打つ。







ハンガーボルトにブレース支持ユニットの予備穴Aを通し、M6ナットで仮締めする。ブレース支持ユニットを、軸組に六角スクリュー24本で接合する。

※節等により適切に六角スクリューを打ち込めない箇所があった場合は、予備穴を使い当該本数分を補う。

2

ブレースユニットのインナーパイプと柱脚部ブラケットを、ガセットプレートを用いて高力ボルト(M12×L40)4本で仮留めする。

注意

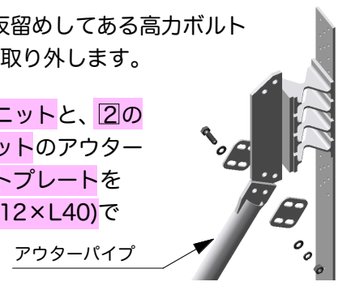
ブレース支持ユニットに接合

アウターパイプがブレース支持ユニット側に、インナーパイプがブラケット側になるようにする。

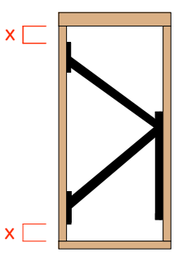
3

ブレースユニットに仮留めしてある高力ボルト(M10×L65：4本)を取り外します。

1のブレース支持ユニットと、2の柱脚側ブレースユニットのアウターパイプ側を、ガセットプレートを用いて高力ボルト(M12×L40)で仮留めする。

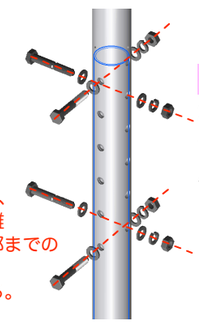


4



できるだけ柱端部からの距離：Xが短くなるよう、柱脚側ブレースユニットの長さを調節する。

※横架材の上端または下端からの距離：Xは、「ブレース長さ＆仕口・ブラケット間距離一覧表」の「仕口からブラケットの各端部までの長さ」を目安とし、原則表中の数値の「+5」～「-15」となっているか確認する。

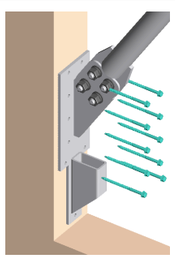


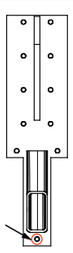
高力ボルト（M10×L65）2本づつが、それぞれ直交するように設置して、仮留めする。

※使用するボルト穴の位置は「ブレース長さ＆仕口・ブラケット間距離一覧表」参照

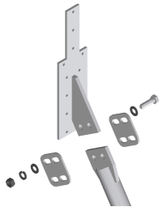
5

2の柱脚部ブラケットを軸組に六角スクリュー10本で固定する。

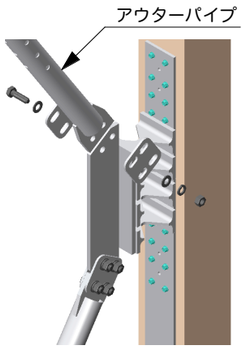




6



ブレースユニットと柱頭部ブラケットを、ガセットプレートを用いて高力ボルト(M12×L40)4本で仮留めする。



7

1のブレース支持ユニットと6の柱頭側ブレースユニットを、ガセットプレートを用いて高力ボルト(M12×L40)で4本仮留めする。

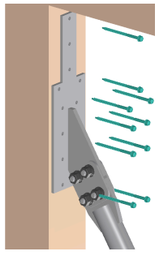
8

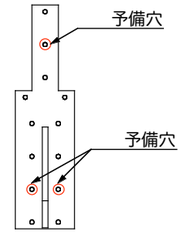
4と同様の手順で、できるだけ柱端部からの距離：Xが短くなるよう、柱頭側ブレースユニットの長さを調節し、高力ボルト(M10×L65) 2本づつが、それぞれ直交するように仮留めする。

9

6の柱頭部ブラケットを軸組に六角スクリュー10本で固定する。

※節等により適切に六角スクリューを打ち込めない箇所があった場合は、予備穴を使い当該本数分を補う。





10

2・3・6・7の仮留め箇所を、各箇所4本づつの高力ボルト(M12×L40)で本締めする。

※ブレース両端部の締付けトルク：70（N・m）

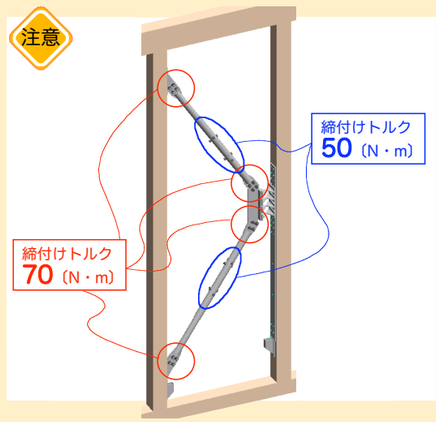
11

4・8の仮留め箇所を、各箇所4本づつの高力ボルト(M10×L65)で本締めする。

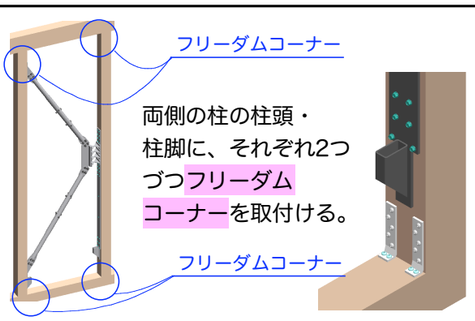
※ブレース長さ調節部の締付けトルク：50（N・m）

10・11で本締めしたボルト部・ナット部に、さび止めスプレー（ウレタン防錆塗料）を吹き付ける。

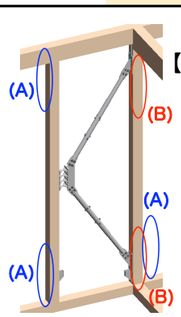
注意



その他



両側の柱の柱頭・柱脚に、それぞれ2つづつフリーダムコーナーを取付ける。



【ホールダウンについて】

※N値計算結果に合うホールダウンを使用する。

※K・ブレースSiBとホールダウン金物やボルト等との干渉を避けるため、ホールダウン金物のボルトは、

- K・ブレースSiBを取付ける柱の反対側(A)
- K・ブレースSiBの構面と直交する方向(B)

等に設置する。